ルト、

29 Lj 膝蓋關節及足關節ニ於ケル多發性關節炎ノ腫脹ト疼痛、體溫 38°、腰椎ノ壓迫痛、心音ノ不純、白血球增多症 16300、發赤肥大セル扁桃腺、齒牙ハ間隙ニ富ミ、齲蝕アリ。セントゲン學的ニ⁵ニ骨炎性病竈アリ。短波誘發ヲコノ病竈ニ行フ。

誘導前ノ赤血球沈降速度反應 73/116mm

誘導後 2 時間目ノ赤血球沈降速度 120/146mm

誘導後 4 時間目ノ赤血球沈降速度 86/125mm

即コノ反應シタ 齒牙病竈ガ多發性關節炎ノ起因ト認メラレタ。コノ病竈ノ除去即拔牙ニ依リ數日以内ニ全症狀及關節ノ腫脹ノ消退ヲ見タ。

拔牙後 5 日目ノ赤血球沈降速度 55/61mm

拔牙後 10 日目ノ赤血球沈降速度 25/40mm

結論。以上ハ齒性中心感染ノ疑アル場合、齒牙病竈ノ中活動性ノモノト非活動性ノモノトヲ區別スルニ成功シタ誘發法ヲ述ベタノデアル。之ニ依リ有害ナル病竈ノミノ根本治療ガ可能トナルノデアル。

(金井保)

保存療法科

齲齒ト榮養問題

Karies und Ernährungsfragen

von Dr. Hans Tiegel.

(Zahnärztl. Rundschau Nr. 1. 1937.)

齒科醫學ト榮養問題ハ密接ナル關係ヲ有スルニモ拘ラズ、現下ノ情勢ニテハ、閑却セラレテ居ル。局所的疾患ト考ヘラレテ居タ齒牙周圍疾患ハ、全身狀態ニ關係シテ居ル事ガ判明シタ。リーフ氏ニ依ルト、政府ノ統計依リシテ、消化器ノ癌死亡率ハ、他部ノ其ニ比シテ、遙カニ凌駕シテ居ル。癌死亡率ハ、其¹/₃ニ於テ、胃ヲ冒シテ居ル。而シテ、原始的生活下ノ國民ノ消化系統ノ癌罹患率ハ著シク稀ニシテ、ソノ歐米化ニ依リテ、顯著ナル増加ヲ來スコトヨリミテモ齲蝕ハ、現今ノ榮養樣式ニ依ル戰慄スベキ結果デアルト思ハレル。ゴームス地方ノ百姓ハ、以前ハ食糧タル黑「パン」ヲ組合ノ爐ニテ燒キ、6—8 週經ツテ石ノ如ク固ク成リ、食時ニ際シ大ナル咬合力ト膨大ナル唾液ノ分泌ヲ要スル様ナモノヲ食シ次ニ、馬鈴薯、牛乳、乾酪、野菜即甘藍、大根、胡蘿蔔、球莖、菲、莢豆類ガ主要食物ニテ、「マカロニー」、砂糖類ハ殆ド用ヒズ、肉類ハ日曜、祭日ニノミ用ヒラル。通常初冬ニ 1 匹ノ牝牛ト 2、

3 ノ羊、2 匹ノ豚又時ニハ山羊ヲ屠殺シ、是ヲニ家族ニ分配スル。肉類ノ貯藏ハ全部鹽漬ニシ、數日穴藏ニ入レ、後ニ空氣乾燥ヲシタ様ナモノヲ食ツテ生活シテキタ。然ルニ交通ノ發達ト共ニ、「パン」ハ「パン」屋ニテ購入シ、手製ノ裸麥ノ代リニ小麥粉ヲ買入レ、然モ、歐米食タル米、捏粉、砂糖、肉類ヲ使用スル様ニナツタ。結果ハ優秀ナルワルス人ノ顎ハ一朝ニシテ失ハレ、齲蝕ハ増加シタノデアル。

現今ノ齒科醫ハ、科學的豫防法ヲ講ジ、學校衛生組織ヲ設ケ、齒「ブラシ」、含嗽劑等ヲ推奨シテ居ルガ、效果ハ殆ド零デアル。齲齒ト榮養トノ問題ニ關シテハシュティナー、和田、片瀬、山上氏ニ依リ驚歎ス可キ研究ガ發表セラレテ居ル。即チ糖、蛋白、脂肪攝取過多ニ依リ、食餌性「アチドーデス」ヲ生ジ、齲蝕及齒槽膿漏ノ一大素因ヲ成スト。ハンス及フォークトニ依ルト、英國ノ豚ハ粥ニ依リテノミ養ハレテキルモノアリ、而シテ上顎骨ハ小サク、齲齒ハ多ク、生殖ハ完全ニ停止シテ居ルト。彼等ハ是ヲ腦下垂體疾患ヨリ説明シテキル。シュレーダーハエスキモー人、ラブラドル、グルー、シラントノ住民ハ齲蝕ニ對シ抵抗力ヲ有シ、齲蝕ヲ認メザルニ、彼等ノ海岸地方ニ住セルモノニハ齲蝕ヲ發見シ得ルト云ツテキル。同様な事ヲダベルト夫人ハエチオピア人ニ就テ述ベテキル。ビルヘル、ベンナーハ齲蝕齒牙周圍疾患ハ、現代人ノ誤レル食餌法ニ關係シ、血液内容、食物ノ不調和ナル合成ニ歸因シテ居ルト述ベテ居ル。リーク、片瀬、山上、フォークト、シュレーダー、グベルト、ギンターノ言ヨリ如何ナル結論ヲ得ルカ？シュレーダーニ依ルト、ミラー氏ノ化學細菌說ハ齒牙ノ抵抗力ヲ消シセシメル外的因子ナリト述ベテ居ル。齒牙ノ抵抗力ハ妊娠授乳等ノ生理的現象ニ依リテ抗下スル。而シテ此ノ時ニハ酸ト細菌ニ依リテ更ニ低下度ガ高度ニ成ルノデアルカラ、問題ハ乳酸ト細菌ニ非ズシテ、齒牙其者ノ抵抗力ナリト云フ可シ。何トナレバ、何等清掃ヲ行ハザル口腔ニ齲蝕ヲ認メザル事往々ニシテ有レバナリ。

更ニ合衆國ニ於ケル兒童ニ就キテ、適切ナル榮養ハ齲蝕ヲ防止シ得ルトノ研究ハ、酸ト菌トノ作用說ヲ第二義的ナルモノトシタ。故ニ豫防ノ第一ハ清掃ニ非ズ、日常ノ規則的ナル榮養デアル。吾人ハ朝食時ニ固キ「パン」ハ、「コーヒー」、牛乳ノ中ニ入レ軟化シテ食ハシナイカ。正午、夕食時ニモ咬合力ヲ要セザル食物ヲ攝取セザルカ。自然ハ徒ラニ 2、3 本ノ齒牙ヲ與ヘ

タルニ非ズ、適切ナル形態何ヲ意味スルカ。使用セザル器官ハ萎縮スルモノデアル。

斯ハ獨リ齶齒ノミナラズ齒牙周圍疾患ニ於テモ同様デアル。豫防ハ一言ニ盡キル。即チ榮養デアル。而シテ最モ困難ナ問題デアル。ビルヘル、ベンナーニ依ルト、榮養ハソノ供給ノ調和的ナルヲ要ス。即チ蛋白質、脂肪、糖類、鐵質、鹽、「ヴィタミン」、「ホルモン」、酵素、類脂體等ノ適正ナル調和デアル。鹽ノ不足、激シキ調味料、「アルコール」ハ考慮ヲ要ス。就中吾人ハ果實、野菜類ノ豐富ナル攝取ハ必要ニシテ、肉類、卵類ハ酸形成過多ヲ惹起スル。脂肪、蛋白質、含水炭素ニ對シテハ、ブラウフレ、ハイニリツヒ、ライナーベルクノ適切ナル著書ガアル。要スルニ吾人ハ蛋白質、脂肪、含水炭素、「カロリー」問題ニ對シテ再檢ノ必要ヲ認メル。齶蝕成因豫防ニ對シテ榮養ハ大ナル役目ヲ演ジ、而シテ齶蝕成因ニ對スルミラー氏說ハ第二義の意味ヲ有ス。故ニ、酸及菌ノ作用ハ不正ナル榮養ニ依リ抵抗力ノ弱ツタ齒牙ニ對シテ效力ヲ發スルシ、又作用的デアル。齒牙ノ抵抗力ヲ高揚確固ナラシメルニハ、榮養ノ適切ナルヲ要シ、是將來ノ豫防醫學ノ目的デアリ亦問題デアルト思フ。而シテ齶蝕及齒牙周圍疾患ハ、生體ノ全身の障礙ノ徵候ナリトセラレル時期モ遠カラザルモノト思惟セラレル。

(三浦秋三郎)

近世ニ於ケル原始的種族ノ變性病變ニ

就テノ新知見。齶齒問題ヲ含ム

(Dental cosmos 1936 No. 8.)

by. Weston A. Price.

近代文明ニトリテ變性病變ハ最モ重要ナル問題デアル。而シテ此等變性病變ハ微生物學、細菌學、外科學ノ進歩ニ依ルモ左程ニ減シテ居ラス。アレキシスカーレル氏ハ曰ク、傳染病ニ依ル死亡率ハ大ニ減少シタガ吾人ハ依然トシテ死スベキ運命ニアル、然モ大部分ハ變性病變ニ歸因シテキル。細菌ニ依ル感染率ハ減少シテキルガ、入院患者總數ハ増加ノ傾向ヲ示シテキル。寧ロ生體ハ變性病變ニ對シテ感受性が増加シタカノ感ヲ懷カシムト。研究ニ依ルト、原始の人類ハ過去現在ヲ問ハズ、當該變性病變ニ對シ比較的免疫性ヲ有シテ居タ。即チドルエル氏ニ依ルト、有史以前ノ南アフリカ人ノ齒牙ニハ齶蝕ヲ有セズト云フガ、現在ニ於テハ古代人頭蓋骨ノ齒牙ニ於テモ齶蝕ハ見ラレル。アルプス山中ノ溪谷ニ居住スル人類ノ齶蝕ノ罹患率

ハ4.6%ニシテ、文明ニ接シテ29.8%ニ増加シテキル。ルイ島、ハリス島ニテハ1.2%ニシテ文明ト接セル部ニテハ30%ニ増加シテキル。アラスカノエスキモ一人ハ元來0.09%ナルニ、文明ト共ニ13%ニ増加シ、イシディアンハ元來0.16%ナルニ文明ニヨリテ、21.5%ニ増加シテキル。又メラネシアン人ハ0.38%ナルニ文明ニ依リ29.0%、ポリネシアン人ハ0.32%ヨリ21.9%ニ増加シタ。フロリダ地方ノコロンビア前期ニハ齶蝕ヲ全然見ナイ然態デアル。今日テハ0.04%ニシテ、文明ニ接シテ0.4%ニ増加シテキル。要スルニ原始の人類ノ祖先ハ齶蝕ニ對シ高イ免疫性ヲ有シタルニ拘ラズ、現在テハ環境ノ變化ト共ニ、次第ニ罹患率ハ高度ニナツタ。大體ニ於テ昔ノ儘ノ生活ヲ送ツテキル場合ハ0—4.6%ニシテ、文明ガ侵入シタコトニヨリ13—14%ニ増加シテキル。彼等ノ本來ノ食物ハ「カルシウム」81.1%、磷80%、鐵30%、「マгнеシウム」86.6%、沃素98.8%デアル。齶齒ト同時ニ上顎側切齒ノ後方轉位下顎齒穹ノ狹窄ハ相伴ヒ、下顎ニ於テハ上顎程著明アナイ。興味アル事ハ、同一種族ノ者ニシテ、發育期ニ營養ガ完全ナル場合ハ、同一家族ノ如キ類似ノ顔面形態ヲ有スルコトデアル。小兒ノ食物ガ不適當テ而モ父親ノ齒穹ガ顯著ニ變化シテモ、母親ガ健全デ營養攝取ガ十分ナル時ハ其小兒ハ顔貌變化ヲ呈シナイ。又輸入食物ガ存在スル期間ハ齶蝕ニ罹リ、何等カノ理由テ貿易船ノ寄港シナイ時ハ罹患率ハ減少スル。貿易品ハ鯊鮐乾、砂糖ガ90%、衣服類ハ10%デアル。顔面及齒穹ノ變化ハ第二次齒牙交換期ニ表ハレルモノデアル。元來カ、ル畸型ハ指ノ吸引、睡眠姿勢ニ因ルトノ說ガ存在スルガ、原始の人類ニテハ、指ヲ吸引セシメルコトハ寧ロ小兒ヲ睡眠セシメル爲ニ推奨シテキル習慣ガアル。然ルニ、原始の生活ヲ送ツテキル彼等ニハ畸型ハ認メラレナイ、コレハ小兒及母體ニ對シ大ナル注意ガ拂ハレテキル故デアラウ。即チ、マサイ地方ニテハ結婚期ハ春デアル。アンゴラ地方ニテハ結婚前特別ナル營養食ヲ取ル。又或ル種族デハ、結婚前6ヶ月乃至1年間勞働ヲ免除シ、又分娩後3年間次ノ妊娠ヲ許可サレナイ。ペーター氏ハ兎脣口蓋破裂ハ天候ニ關係スルト云ツテ居ルガ、察スルニ天候ニヨリヨリモ其ノ時期ノ「ヴィタミン」量ニ因シテキルト思惟セラレル。「ヴィタミン」ハ春、夏期ニ多イ。「ヴィタミン」缺乏ニ依ルト、心臟病、水痘、麻疹、腎臟炎、猩紅熱、出血症、破傷風、咽喉膿瘍、眼球疾患ノ